

崩壊熱評価サブ・ワーキング・グループ会合

日 時 : 昭和54年8月9日 9:40~17:00

場 所 : 原研東海研究所

出席者 : 吉田 (NAIG), 松本 (原研), 秋山 (東大), 中嶋 (法大)

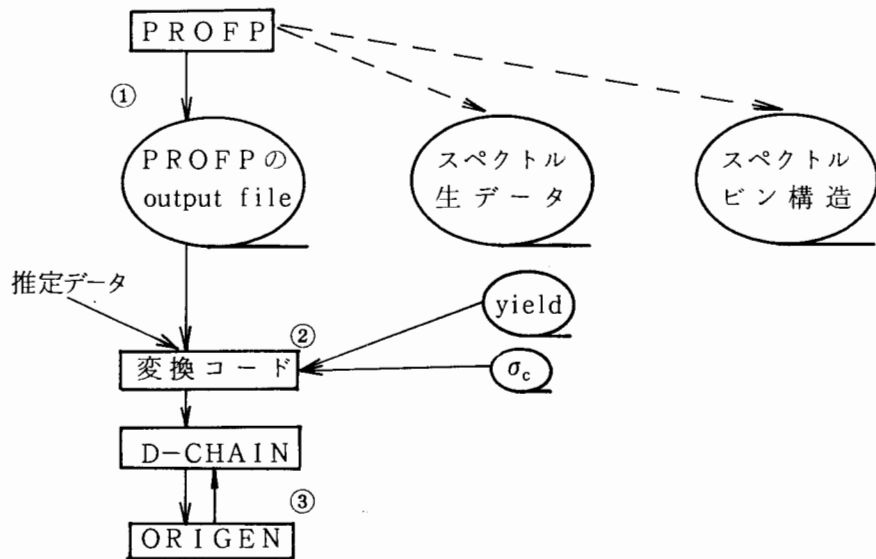
議 題 : 崩壊熱データ・ファイルの仕様検討と作業計画

生データ file NDFILE → 評価済みデータ file ENSDF → 処理コード PROFP → 熱計算コード D-CHAIN および ORIGEN, という流れを議論した。

- i) NDFILE → PROFP あるいは ENSDF → PROFP については後の問題として, 今回は考えない。
- ii) PROFP → D-CHAIN の過程で, 崩壊データ・ファイルを置く必要がある。その理由は, D-CHAIN (または ORIGEN) 型式にもっていくためには, a) gross theory または correlation による推定データを入れる必要がある。 b) yield データを入れる必要がある。 c) (η, r) 断面積データ——FPグループの評価データ——を加える必要がある。
- iii) D-CHAIN 型式と ORIGEN 型式との間の相互変換については, NAIG での経験によると, D-CHAIN 型式 → ORIGEN 型式の方が簡単かもしれないので, PROFP の output file は D-CHAIN 型式につながるようにする。
- iv) スペクトルについては, 生データ (PROFP の入力) とビン構造 (PROFP の出力) との両方について別のファイルを作る。
- v) PROFP の output file の仕様は;
 1. 核種名, isomer が2つある場合は M, N で分類
 2. λ (sec^{-1}), $\Delta\lambda$. 推定レベルの flag をたてる
 3. Q_β (MeV), ΔQ_β . ($\langle E_\gamma \rangle$ や $\langle E_\beta \rangle$ の推定用), 推定レベルの flag をたてる。

4. $\langle E_\beta \rangle, \Delta \langle E_\beta \rangle$
5. $\langle E_\gamma \rangle, \Delta \langle E_\gamma \rangle$ } 単位は MeV, - 1.0 なら測定値なし
6. 崩壊形式. 単なるメモ用
7. 親核種の数. 上記 1. のあとに入れる
8. 親核種名とその崩壊形式, 分岐比とその誤差

vi) 図式的に示すと



vii) 作業計画

①は秋山, 松本

③は吉田

②は次回に更に検討して分担をきめるが, 一応秋山, 吉田, 宝殊山, 田坂, 松本で行なう。

viii) 次回, 8月20日から始まる週の1日

原研東海研